



# IV-NEWS

Vol. **33**

## 大盛況！IV-JAPAN30周年事業報告会 @資生堂美容技術専門学校



フィナーレは庄巻の民族衣装ファッションショー！

6月2日(土)に開催された「IV-JAPAN 創立30周年事業報告会」は、約180名の参加者を迎え、大盛況のもと幕を閉じました。内容も充実し、IV-JAPAN とつながりのある方々が出演者としてステージを盛り上げてくれました。

30年間、無事にそして活発な活動が行えたのも、外務省や JICA、埼玉県国際交流協会などの関係機関の支援、現地の方々の理解と協力、そして何よりも、ラオスやタイ等のことを思い当会を支援をしてくださったドナーの皆様のおかげです。あらためて心より感謝申し上げます。

次の40周年、50周年に向け、代表の富永をはじめスタッフ一同、今後もラオスやタイを始め、アジアの人々のための支援を続けて参ります。

また、会場の提供および準備、当日の運営にご協力頂いた資生堂および資生堂美容技術専門学校の皆様、当日ボランティアの皆様、この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

### 創立30周年に寄せて ～関係者の皆様から～



#### ラオス教育スポーツ省副大臣 Dr. Kongsy ENGMANY 氏

IV-JAPAN 創立30周年を、心よりお祝い申し上げます。

これまでの貴団体の大変熱心な活動により、現在ラオスに数多くの学校や職業訓練所を建設されて、教育環境の改善に寄与され、また縫製、調理、理美容、木工家具等の職業訓練を行い、ラオス人の人材育成に対し多大な貢献をされてきました。多くの若者や女性たちの起業や就業が可能となりました。貴団体は数々のプロジェクトを実施し、遠隔地や山岳地帯に住む多くの貧しい人々の生活水準の向上のために、尽力されてきました。

私は IV-JAPAN がこれからも、ラオスの人々のために貢献されることを願っております。

## 創立 30 周年に寄せて ～関係者の皆様から～



### 在ラオス日本大使館 特命全権大使 引原毅 氏

IV-JAPAN が、本年度創立 30 周年を迎えられたことにお祝いを申し上げます。ラオスでは、多くの国の政府や民間団体が開発支援を行っておりますが、その中でも IV-JAPAN は、「援助とは、自立できて報酬を得られるようになるまで」という理念の下、独創的な活動を長年にわたり実施されています。全国各地に職業訓練所を建設し、木工家具の制作、調理、理美容、縫製などの技術を若者に教え、2,500 人以上の卒業生を送り出しました。

また、全国各地の幼稚園から中学校まで、多くの校舎や図書館の建設を支援し、ラオス国内で 3,000 人以上の生徒に奨学金を給付されました。

日本政府も「NGO 連携無償資金協力」等を通じて、こうした IV-JAPAN のユニークで有意義な活動を支援しています。また、昨年是在ラオス日本国大使館として、代表理事の富永幸子さんに公館長表彰を行いました。

IV-JAPAN の様々な活動は、創始者でもある富永さんの幅広い人的ネットワークに支えられていると思います。これまでのご活動に改めて敬意を表します。IV-JAPAN の今後のご活動に期待し、日本とラオスの関係の一層の発展を祈念して、私からのお祝いのメッセージと致します。



### JICA ラオス事務所 所長 米山芳春 氏

30 年に渡って、途上国の若者達の自立の為に活動してきたことに、敬意を表します。特に、ラオスにおいて 20 年以上、一貫して若者達の職業訓練をしてきたことは非常に素晴らしいです。

我々 JICA も、これまで政策・制度支援など様々な取り組みをしてきましたが、国民一人ひとりと同じ目線に立って、「草の根」の支援をすることは容易なことではありません。IV-JAPAN は、地域に根差して、JICA ではできないきめの細かい「草の根」の協力を実践してきました。JICA の政策・制度支援の協力、IV-JAPAN の草の根の協力、この二つの相乗効果によって、ラオスにとって良い影響のある協力ができると思います。

IV-JAPAN の活動は、富永代表の意思の強さ・熱意に加えて、IV-JAPAN に関わったスタッフの皆さん、日本で IV-JAPAN の活動を支える多くの支援者の皆さんあつての活動です。今後も、ラオスの若者達のために、一緒に協力していけたらと思います。



### IV-JAPAN タイ財団 理事長 Ladda Phromyothi 氏

IV-JAPAN タイ財団の代表として、貴会の創立 30 周年をお祝いする機会を頂いたことを、光栄に思います。IV-JAPAN タイ財団は、設立して 20 年を迎えました。創立者である富永幸子さんの多大な努力により、地方の村の多くの恵まれない子ども達や家族が、その恩恵にあずかりました。奨学金制度を支援して下さるドナーを見つけるため、富永さんは、長年に渡って積極的で精力的な努力をされてきました。その努力は、多くの貧困家庭の子ども達や、ピブン福祉財団（受刑者の家族を支援するための財団）の支援する受刑者の子弟達に、教育を受ける希望を与えました。当財団は今日まで、多くの専門家やボランティアの方々の協力によって支えられてきました。

創立 30 周年を迎える IV-JAPAN に心からの敬意を表するとともに、長年に渡って当財団の今日までの歩みを献身的に支援して下さった皆様に、心から感謝を申し上げます。IV-JAPAN の益々のご発展をお祈り申し上げます。

### 横田順子 氏 (IV-JAPAN 顧問 元駐ラオス日本国大使)

IV-JAPAN 創立 30 周年、心よりお祝い申し上げます。

この 30 年間、休むことなくラオスを含めアジアの国々と日本を市民の目線と行動力で繋ぎ、数多くの人々の夢と希望実現を手助けしてきた IV-JAPAN の実績は、富永代表理事始め関係者全員の勲章だと思えます。皆さまの活動の更なる発展を祈っております。

**加藤陽一 氏 (NPO 法人埼玉 NGO ネットワーク理事・事務局長)**

国際協力 NGO・IV-JAPAN が設立された 1988 年には市民活動を支援する制度、特定非営利活動法人促進法 (NPO 法人) はまだ制定されていない。国際協力に理解ある市民、団体、企業、行政も少ない中での IV-JAPAN の設立。市民団体が行う国際協力の先駆者として、多くの困難な壁が立ち塞がってきた事が推察される。そこを突破して 30 年間に渡り国際協力の実績を築き、今日、外務省や国際協力機構 (JICA) と協働する数少ない国際協力 NGO となっている。富永幸子創業者・代表理事と多くの協力者に心から敬意を表します。

**高倉昌子 氏 (調理コース職業訓練 講師 奈良県)**

ラオスに於いて、ラオス国民が最も望んでいることを地道に応援されかつ援助されてこられた功績は、とても偉大なことと常々思っています。ランプしかないシェンクアンの山の中に滞在して村民の支援などはなかなかできることではありません。私は職業訓練学校で日本料理の実習のお手伝いに行きましたが、ビエンチャン校に通学できる人達だけでは充分でないと、寮を建設して遠方の村民達が教育を受けられるように幅の広い支援をされています。ラオスの人々にとりましては、一生の思い出と糧になる素晴らしいことで、多数の卒業生がいろんな方面で活躍されますのを見聞きし、大変嬉しく感じると同時に、偉大な功績に対して敬服する次第です。これからも益々ラオスの国や人々に心温まる支援を期待しています。

**田村福代 氏 (田村英語教室講師／導引養生功指導員 埼玉県)**

富永さんが作られた国際ボランティアの会が IV-JAPAN となり、なんと今年創立 30 周年とのこと、おめでとうございます。富永さんとは、MPI (松香フォニックス研究所) の英語研究会で出会いました。初対面の頃から、語られるビジョンの大きさと実行力に驚かされるばかりでした。スタッフの方々にも恵まれましたね。ここまで会を大きくされ、充実した活動を継続されていることに敬意を表します。私もドナーを続けます。

**長田茂野 氏 (IV-JAPAN ドナー 埼玉県)**

30 周年おめでとうございます。テレビ番組を通じて 25 年ぶりに富永さんにお会いすることができました。昔と少しもお変わりなく、愛深く慈愛に満ちたお姿を拝見し、この日を迎えられるのはひとえに富永さんの御人徳の賜と心から拍手喝采です。素晴らしいスタッフの方々にも恵まれて、益々お健やかに人世のために御活躍なさいますよう心より切に切にお祈りいたします。この先も必ずや天が大いなる味方となって下さることを信じています。IV-JAPAN、乾杯！！

**宗像邦司 氏 (IV-JAPAN ドナー 福島県)**

IV-JAPAN 創立 30 周年を迎え、誠におめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。IV-JAPAN の活動は私の志に合致するボランティア精神だと思っております。人と人のつながりは永遠の活動の礎となることでしょう。これからも IV-JAPAN を応援していきたいと思っております。

**石嶋裕司 氏 (文京学院大学 キャリア・社会教育センター)**

文京学院大学は 2018 年 2 月、IV-JAPAN 様ラオス事務所に、4 学部横断プログラムである GCI グローバルインターンシップの学生を初めて受け入れていただきました。今回、創立 30 周年事業報告会で、本学学生がインターンシップ実習報告のプレゼンテーションを行う機会をいただきました。現地で IV-JAPAN 様の活動の一翼を担わせていただいたことが、学生の大きな自信につながっていることに深く感謝申し上げたいと思います。IV-JAPAN のみなさま、創立 30 周年誠におめでとうございます。今夏もまた本学の学生がお世話になります。もし、40 周年、50 周年の報告会でこの学生が社会で活躍する姿を見せてくれたなら、これほど嬉しいことはないでしょう。末筆ながら IV-JAPAN 様が、これからも一人ひとりの成長に寄り添って発展されることを心よりお祈り申し上げます。

**松下俱子 氏 (恵泉女学園前理事長 東京都)**

IV-JAPAN 創立 30 周年おめでとうございます。40 年ほど前、富永代表と私は少女の教育団体・ガールスカウトで野外活動の企画、実施を担当していました。代表はよく新しい挑戦を提案して下さいました。その能力を存分に磨き、高め、多くの協力者を得て IV の創設、発展に尽くされたと思います。今後ともアジアの女性の様々な学習、就業が促進され、女性の活躍力開発に貢献される IV として発展されることを期待いたしております。

### 石井直子 氏 (コロンビア・ファッション・カレッジ理事長 岐阜県)

何十年か前、富永さんのツアーで、タイと日本のガールスカウトたちが、タイのバンボク村でホームステイをしました。そこへ、東北タイの村人が、二日もかけて歩いて富永さんに会いに来ました。干害を防ぐ溜池をいくつも掘ってくれたお礼を言うためでした。NGOの仕事はラオスに移っても続き、アジアの多くの人々の命を支えています。高齢者になった我々もこの尊いお仕事を支えますから、健康でご活躍下さい。30周年おめでとう。

### 渡久地澄子 氏 (元ガールスカウトトレーナー 沖縄県)

30周年よく頑張りました。おめでとう。夏の昼下がり、富永代表と照屋康子さんが突然那覇に来られてから30年余。その日の事を思い感無量である。突然の出来事であったがタイ国に下見に行き、カノック女史の支援もありボランティアの会の基礎ができた。戦後沖縄も多くの国々から支援を受けた思い出があったので、恩返しのためにも沖縄のガールスカウト達が参加したのが始まりで、今知人友人が参加、今日に至っている。タイ、ラオス思い多き、感謝です。

### 池上洋子 氏 (ガールスカウト東京都145団)

IV-JAPAN 創立30周年、心よりお祝い申し上げます。4月2日「世界ナゼそこに？日本人」という番組で、富永代表がラオスで活躍されている姿が紹介、放映されました。私も1999年、2000年とスタディーツアーでラオスを訪問し、開所式に参加した時の職業訓練校を目にし、懐かしさで一杯になりました。あれから18年の月日が経ちました。当時、訓練生だった若者達も手に職をつけ起業するまでに成長する…。その一連の取り組みは、富永代表の情熱と思いの強さがあったからこそであり、現実化する為に困難を乗り越え、協働してくれる方々の力も大きかったと思います。持ち前のパワーと変わらぬ努力で、誰からも認められる成果が表れています。今後もIV-JAPANの継続とますますの発展を願っています。

### 賀元澄子 氏 (元ガールスカウトトレーナー 大阪府)

30年前の富永さんの思慮深さ、逞しさ、勇気、決断力の速さ等が、独特のほほえみと包容力と共に人々を惹きつける魔力となって、「何とか力になってあげたい」と思わせる不思議なものが湧いてくるのでしょうか。教育を身につける(考える、創意工夫をする、努力する)ことによって木工、お料理、理美容の分野では独立をした人も出、逞しい存在になって活躍している人も増え、この調子で頑張っていってほしいです。

### 池田敏秀 氏 (IV-JAPAN 副代表 30周年事業報告会実行委員長 株式会社肌箋舎 代表)



理美容コース卒業生  
ブンさん

私がIVの活動に参加して18年になるが、最初に会った女性が、今回サクセスストーリーを語りに来日してくれたブンさんだった。童顔の美少女はこれまで私が何度もラオスを訪れても必ず居た。一流の美容師を志して研鑽を積んでいた時だと思う。このころ、二人のラオスの女性が来日し、私の家を訪れた。畑のイチゴ以外は何も食べず、東京の喧騒に眉を顰める少女だった。だからブンさんにも同じことを想像していた。飛行機に一人で乗れるだろうか、日本の食事は口に合うだろうか……。でもすべてが杞憂だった。報告会前日、誘った江戸川橋のイタリアンレストラン、そこには日本の若い女性と何ら変わらないブンさんがいた。マグナムボトルのワインも空っぽになった。

日本女性と違うところがあるとすれば、それは人生に関する真摯さだと思う。見学した美容学校の威容さに圧倒されたのかもしれないが、娘さんを本気で資生堂美容学校に入れたい、それを当面の目標にすると断言した。彼女をここに連れてきて本当に良かったと思う瞬間だった。18年前のラオスの少女像はブンさんによって完全に新しいものに上書きされた。でもそれはちっとも残念なことではなかった。ブンさんの志が18年前と変わっていなかったのだから。IVもラオスの進歩についていかななくてはならない。18年前「ラオスの女の子もおしゃれになったからそろそろ美容コースが要るね」と思ったように。

### 豊田利久 氏 (IV-JAPAN 理事 神戸大学名誉教授)

ラオスでは、1990年代半ばにはすでに日本の大きなNGOがいくつかの事業を展開していました。その中で、女性の職業訓練による人材育成というニッチな分野を中心に、着実に実績を積みできました。大きな組織にクラウドアウトされることもなく、様々な難局を乗り越えて現在に至ることができたのは、代表理事の発想力、柔軟性、忍耐、交渉力によるところが大きいと思います。また、サポーターの皆様の貢献ももちろんあります。今後の課題として、正会員の数を増やす必要を感じています。

**上田義朗 氏 (IV-JAPAN 理事 流通科学大学教授 アジア経営学会会長)**

30年に渡り活動継続されてきた皆様、そして多大の協力を賜っている皆様に敬意を表したいと思います。私はラオスでの活動に接してから20年にもなりません、その間、経済環境の変化に伴って現地の人々のニーズも変化しています。それに対応するために従来の「慣性」に陥らず、新たな挑戦や革新に向けて組織の活性化が求められます。私も微力ながら少しでも貢献ができればと思っております。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

**河島一郎 氏 (IV-JAPAN 理事 板橋区土木部 みどりと公園課 南部公園事務所長)**

懇親会では、IV-JAPANの現在の主な支援先であるラオスの料理とビアラオでもてなしたいと考えていました。準備の甲斐もあり、懇親会でのラオス料理、ビアラオは大好評で、料理が残ってしまうのではという心配は杞憂に終わりました。プリック・タイのペンチャン様、寮都産業(株)の村松賢志様、ご協力ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。この1年、理事として参加した様々なイベントや今回の料理手配で感じたことは、ラオスのことを知らない日本人がまだまだ沢山いるということでした。IV-JAPANの支援事業を継続・拡大するためにも、ラオスやIV-JAPANの認知度、理解をいかに広め賛同・協力者を増やしていけるかが今後の鍵になると考えています。

**30周年事業報告会運営費 寄付者一覧 (2017年4月1日～2018年6月30日) ※敬称略**

【100,000円】井藤尚子

【50,000円】生駒和夫、池田敏秀、富永幸子

【30,000円】寺井英雄、太田裕章

【20,000円】吉野貴美子、斎藤加代、伊佐尚、森重かをり、利根川恵子、池上洋子、大竹千歳、高倉昌子

【10,000円】河合明弘、伊藤裕子、生田英生、森本進、金野喜久子、込山まち子、大野宏江、坂本秀美、福永文代、斎藤忠勝、麻沼雅海、河島一郎、大矢和子、前澤大介、高橋さとみ、河島明子、株式会社ジャンピングツアー、荻原理江、五百部喜作、秋山登美子、賀元澄子

【7,000円】松下俱子

【6,000円】上田義朗

【5,000円】五十嵐香苗、菅原由紀、豊田利久、村井明美、尾上真由美、石川由紀子、渡久地澄子、望月伸保、中島芙美代、金子玲子

【4,000円】高橋賢一

【3,000円】奈良伊世、杉本浩二、小林敏光、上田義朗、岩渕徳郎、川島康弘、川鍋加代子、上倉健司、吉村反次郎、下村美代子、池亀奈津美、池上亜樹、三田美枝子、

【2,000円】佐藤照美、辰口利彦、高橋秀企、西田美晴、佐藤博義、金清子、吉田昭子、右柴睦美、三枝節夫・裕子、佐々木昌子、寺村登志子、黒田浩己・歩、鴨志田久美子

【1,000円】羽柴早百合、中野祐輔、碩義江、釣谷麻美、上田修、中西紘美、寺師尚一朗、大場雅子、広瀬智恵、斎藤友美恵、南月原景子、石嶋裕司、草野千秋、中澤達夫、風間和江、海野由美子、入野仁美、近藤俊夫、松本弘子、串田正代、中川雅之、井上貴美枝、篠原恵、尾池富美子、金公女、佐藤小百里、北村浩二、北村愛子、西岡康夫、安田昌美、荒井孝喜、黒岩真澄、伊藤洋子、鍋島ゆかり、秋本佳之、中村稔、村松賢志、西野真理、ジェイソン・ダラウヤン、大沢ひろみ、佐藤恵利子、吉田琴音、梅林しのぶ、有馬美奈子、野村優子、岡田久恵、岡田華奈、川島操、掃部関 様 (※氏名が読み取れなかったため、名字を記載致しました。ご了承下さい。)

【9,000円】無記名寄付

**寄付金総額 867,000円**

ご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。余剰金につきましては、当会の国際協力費・運営費として有効に活用させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 幸子のラオス便り No. 39



30周年に出席できた母と姉

人生の半分近くを IV-JAPAN と歩んできました。また、ラオスに住んで 20 年以上が過ぎました。

10 歳くらいの時、百科事典を見ていると、インドのサリーの着方の連続写真が出ていました。「ああ、きれい、私も着てみたい」と瞬間思いました。それで英語を習い始め、中学 1 年生の時にインドのペンフレンドを持ちました。もっと国際活動がしたくて、中学 3 年生の時にガールスカウト日本連盟を訪ねて、ガールスカウトに入団し、リーダーとなってからは新しい国際教育としての開発教育を学び、それが IV-JAPAN の原点となっています。先進国であれ、

開発途上国であれ、お互いに助け合って暮らしは成り立っています。ですから「みんなが幸せに暮らすには、自分に何ができるか。できることから行動しよう。」と思いました。

1980~81 年にかけてタイに住む機会があり、タイの東北や北部の貧しい農村や難民キャンプを訪問しました。帰国後の 1988 年に IV-JAPAN の前身の国際ボランティアの会を設立し、タイ国で奨学金支給と農村開発を開始しました。1994 年からはラオスに活動に移し、主に職業訓練を始めました。ラオスの職業訓練は縫製、調理、理美容、木工を行っており、卒業生は 2500 人を超えました。IV-JAPAN 方式として高く評価されたのが 2 点あり、第 1 は上級コースの On the Job Training (OJT) は 6 か月間の実践を通して実際のお客相手手に料金を頂き、レストラン、ブティック、理美容のサービスを提供し、収益は生徒たちで分配します。第 2 は現地政府に譲渡後も現地で継続できるように授業料を設け運営費にあてました。貧しい生徒には皆様のご協力でカノック奨学金を支給しました。

2011 年東日本大震災をきっかけに緊急支援活動を開始し、東北に住むアジア人被災者への炊き出し、2013~14 年のフィリピン国セブ島台風被災者の支援、2015 年から 2018 年の現在はネパール国ゴルカ郡地震をきっかけに緊急支援と職業訓練を始めました。

この 30 年の間には会がつぶれてもおかしくない時が何度もありました。そのつど多くの助っ人が現れて、危機を脱してきました。本当に皆様のお蔭です。多くの支援者、ボランティアの皆様、理事はじめ職員に感謝します。最後に 102 歳近い母や姉妹にも感謝です。

### 千客万来 \* ラオス事務所 \*

6/7 【中村淳一 様 (パナソニック株式会社)】

6/9 【江田佑介 様 (PMV VIETNAM SERVICES JSC・元ワークキャンプ参加)】

6/22 【木村由佳 様 吉井友美 様 海老原ひと美 様 鍛冶大佑 様 松井峻 様 中西宏 様 鈴木洋平 様 西村真弓様 (JICA 青年海外協力隊&シニアボランティア / ラオス菓子教室 @OJT1)】

7/30 【JICA 沖縄/教師海外研修：上原真紀 様 大城ともみ 様 上運天亜希子 様 金城千秋 様 崎原壘 様 本村良太 様 琉球朝日放送 (QAB) 撮影クルー一行 様 戸倉裕子 様 (JICA ラオス)】



ラオスのお菓子作りに挑戦!



甘くておいしい、マンゴーともち米のデザート



JICA 沖縄/教師海外研修の皆様

### 千客万来 \* 日本事務局 \*

4/20 【金野喜久子 様、井藤尚子 様、関矢綾子 様  
(アイロンがけボランティア)】

6/19 【井藤尚子 様、藤田由枝 様、小沢秋子 様】

6/21 【石川啓 様 (日本ラオスなかよしキッズ協会 事務局長)】

7/19 【秋元佑一朗 様 (キャスレーコンサルティング株式会社)】

【写真右】会報の発送準備、30 周年事業報告会の衣装のアイロンがけ等々、人手に困ったときの心強い助っ人、金野さん、井藤さん、関矢さん。いつもありがとうございます!



民族衣装のアイロンがけ

## JICA 木工 ラオス職業教育校のトレーナーの技能向上プロジェクト

### 【主任トレーナー研修】

主任トレーナー研修は6月25日から8月31日までの10週間の予定で、カウンターパート（CP）である職業教育開発機関（VEDI）木工実習室において実施されており、VEDI トレーナー2名と事前調査により選抜した地方校トレーナー10名に加えて、一般企業より2名の木工技術者が参加しています。木工インストラクターとしてご指導いただいている石橋幸治さんは、ベトナムやベネズエラでの活動経験があり、途上国ラオスでの不便さを理解した上での精密な家具作り方を工夫してくださっています。そのお陰で参加者は十分な技術を習得できています。また7月23日から1週間、ものづくり大学の赤松明学長に木工機械メンテナンスをご指導いただきました。更に8月20日からの2週間は、長澤良一専門家に木材塗装をご指導いただきます。



木工訓練の授業風景

### 【産学民協働】

本プロジェクトで実施するスタディーツアーやインターンシップ、就職支援のために、ラオス家具組合（LFA）と連携を進めて来ました。その結果、CPであるVEDIとLFAおよびIV-JAPAN間で協定書を締結することができました。協定書の同意内容に基づき、LFAからも2名の木工技術者を主任トレーナー研修に受け入れています。またLFA主催で年3~4回開催される家具フェアに無料で出展させてもらえることになり、今回（7月7日~15日）はプロジェクト紹介のパネルを展示しました。次回からは、本プロジェクトで製作した家具を展示・販売します。更に今後は、最新の設備が整っているLFA会長のカンパイ・サナ社工場へのスタディーツアーや特別講習等も計画しています。



### 【石橋幸治, 木工インストラクター(派遣期間: 6月8日~12月28日)】

新事業、木工指導者向けのための技術セミナートレーナーに6/8より着任となった石橋幸治です。日本で家具製造、現場取り付け、近年では青年海外協力隊ベネズエラ国木工技術職派遣、ベトナム国で家具工場勤務など海外においても木工家具に関わる仕事をしてきました。製造業の強い日本ですが、必ずしも日本の方法が正しいとは限りません。ラオスの人たちと一緒に落とし所を考えながらプログラムを進めて行きたいです。旅行で何度かラオスに訪れたことがありますが、仕事としては初めてのなので、スタッフや他のみなさんのご協力の元、よろしく願います。植林・伐採を繰り返すことによって持続的に林業を行う基盤を構築しているのは、基本的に先進国だけらしいのですが、最近植林についての会議が日本と当地でありました。ラオスとしては無分別な伐採を禁止して、少ない森林資源で付加価値のある木工製品を作ろうという事だと思います。



### 【赤松明, 木工機械短期専門家(派遣期間: 7月23日~7月30日)】

第1フェーズからお手伝いさせて頂き、木工産業がラオスでの基幹産業となるよう、さらにアジアでの家具産地として進化することを願って、その技術者や技能者の育成の一端を担った。第2フェーズでは、全国の職業訓練校のトレーナーの技術・技能をレベルアップすべく2018年6月より、全ラオスの職業教育校から選抜されたトレーナーらの、ビエンチャンの職業教育開発機関で技術研修が開始された。7月~8月にかけては、「木工機械」及び「木工塗装」について1週間又は2週間の短期技術研修が実施されることになり、私は「木工機械」について7月に専門家技術研修を実施した。この研修の主な目的は、木工機械の安全操作、整備、点検の必要性についてである。木工機械の安全操作は環境整備が第一で、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰け）を徹底し、その上で当該木工機械の整備・点検であることを概説した。特に本研修では、安全が第一で、その要件は環境整備が重要であり必要道具・用具の配備さらには機器の安全（漏電、のこ歯、かんな刃が不良でないこと）の確保が最重要要件であることを述べた。また、木材加工を教育する上で最も基本である切削理論については、木工機械の精度検査の実務を実施しながら解説した。つまり、木工機械作業において最も重要なのは、安全作業ができる環境が担保され、不安全作業では加工精度が悪くなり、製品の品質低下に繋がるため、常に安全作業でなければならないことである。おわりに、この研修を受講されたトレーナーが、自身の職業訓練校に帰任されたとき、安全を第一に指導をされれば、木工産業がラオスの基幹産業となると確信します。

## 【お知らせ】

- ①NHK ラジオ深夜便（富永のラオスレポート） 9月21日（金）の深夜（9月21日午前0時台）  
聞き逃しサービス：<https://www4.nhk.or.jp/shinyabin/>（放送日から1週間以内）
- ②富永講演 「主婦が始めた国際協力30年」—まずアクションから—  
日時：2018年10月28日（日）13:00~14:30  
場所：ものづくり大学 中央棟1階 C1010大講義室（埼玉県行田市前谷333番地）  
お申込み・お問い合わせ先：ものづくり大学 教務・情報課 お申込み締切日：10月19日（金）  
TEL：048-564-3895（土・日・祝日除く9:00~17:00） FAX:048-564-3201

## 【寄付者一覧（2018年4月1日~2018年7月31日）】 ※順不同・敬称略

## 【チャンパー山の民奨学金 寄付者一覧 1口60,000円】

伊藤裕子（2口）、真鍋佳絵（1口）、渡久地澄子（1口）、斎藤加代（1口）、神田佳穂里（1口）、松下俱子（1口）、吉野貴美子（1口）、川鍋加代子（1口）、石坂幸子（1口）、福永文代・伊藤弘美（お二人で1口）

## 【カノック奨学金 寄付者一覧 1口12,000円】

渡久地澄子（5口）、濱口敏行（3口）、新井良夫（2口）、土屋多賀子（1口）、八木道子（1口）、松下俱子（1口）、斎藤雄太（1口）、賀元澄子（1口）、久高恵子（1口）、和田治江（1口）、山口愛子（1口）、富井伊都子（1口）、玉寄明美（1口）、石井直子（1口）、河口道子（1口）、稲葉尚子（1口）

## 【国際協力費・運営費 寄付者一覧 ※2,000円未満は省略させていただきます。】

塩谷雄一（50,000円）、松井久仁子（30,000円）、田中美樹子（30,000円）、田中治彦（20,000円）、日本ラオスなかよしキッズ協会（20,000円）、北條正子（10,000円）、（有）イチカワ北海食品（10,000円）、小沢秋子（10,000円）、河合明弘（10,000円）、さいたま新都心税理士法人（10,000円）、渡部千里（5,000円）、田中兄一（5,000円）、松下俱子（3,000円）、賀元澄子（3,000円）、久高恵子（3,000円）、上田義明（3,000円）、山口愛子（3,000円）、小林愛子（3,000円）、玉寄明美（3,000円）、関矢綾子（3,000円）、石井直子（3,000円）、田中誠吾（3,000円）

## 【ネパール2018事業費】

石川みどり（100,000円）、長田茂野（60,000円）

## 【ドナー募集】

○カノック奨学金、国際協力費・運営費、チャンパー山の民奨学金、各ドナーを随時募集しています。

- ①奨学金ドナー 12,000円以上（年1口）  
②国際協力費又は運営費ドナー 個人：3,000円以上（年1口）／団体・法人：10,000円以上（年1口）  
③チャンパー山の民奨学金 60,000円以上（年1口）

○申込方法 ※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。

郵便振替：（口座番号）00140-5-537168（加入者名）IV-JAPAN

銀行振込：埼玉りそな銀行浦和中央支店 普通預金 口座番号：5038052

名義人：（特非）国際協力 NGO・IV-JAPAN



認定・埼玉県指定 特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

## 日本事務局

〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋2-545-2-101

TEL/FAX: 048-622-8612

E-mail: [iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp)

<http://iv-japan.wix.com/iv-japan>

## ラオス事務所

P.O Box7920 Vientiane, Lao PDR

TEL/FAX: +856-21-316047

E-mail: [ivjapan.vte@gmail.com](mailto:ivjapan.vte@gmail.com)

## タイ事務所

Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya (Rajavithi9),

Rangnam, RajavithiBangkok 10400 Thailand

E-mail: [valaikorn@hotmail.com](mailto:valaikorn@hotmail.com)



(IV-JAPAN QR コード)



(アカウントービリティセルフチェックマーク)